



無痛分娩について

Q: 無痛分娩について教えてください。

A: 最近希望される方がふえてきました。アメリカや、欧州では、日常のおこなわれていきます。無痛分娩といえば、何かしら、陣痛の痛みから逃げ出すようなマイナーイメージをお持ちのかたも多いと思いますが、けっしてそんな事はありません。

難産や、進行の遅いお産のときなど、帝王切開が多用される傾向がありますが、過剰な痛みをとることによって、リラクセスしてもらい、子宮口の開大を進めることができます。

方法は、硬膜外麻酔といって、腰から針をさして、細いチューブを入れ、持続カテテルとします。痛みは、最初に麻酔のための局所麻酔で針をさす時の痛みだけで、いわば採血のときのようなものです。20分ほどすると、ゆっくり麻酔が効いてきます。先ほどの陣痛のいたみはどこかにいったようになります。微笑みながらお産をされるかたもおられます。また、およそ2時間ぐらいで、麻酔がきれますので、持続カテテルから、麻酔剤をつぎたしてゆきま

す。開始から3〜4時間でお産になることを目標にしています。

お腹から下の痛みがとれますが、上半身は自由に動かせます、もちろん意識は、はっきりとしていますのでご主人と一緒に、生まれたばかりの赤ちゃんを抱くという感動も味わうこともできます。

また、無痛の良さは、分娩後にもあります。お産後の胎盤排出や、創部の縫合など、苦痛がありません。



Q: 外陰部ヘルペスについて

A: 婦人科のヘルペス外陰炎が増えています。若い方からお年寄りまで幅広く発症し、ピリピリとした痛み(排尿時しみる)と再発を繰り返すのが特徴で、市販の軟膏を塗っていても改善しません。ぜひご来院下さい。